

大正十四年十一月

經濟論叢

自第十一卷
至第二十卷

論題索引

京都帝國大學經濟學會

一、本索引は經濟論叢第十一卷乃至第二十卷におけるすべての論題を網羅す。但、法令、學會記事及び簡單なる新著紹介は之を省く。

猶第一卷乃至第十卷の論題索引は大正九年七月經濟論叢第十一卷一號に在り。

一、論題下に掲げたる數字は卷數と號數とを示す。例へば十一ノ一とあるは第十一卷一號の略稱なり。アダム・スミス生誕二百年記念號は第十八卷一號に當たる。

一、項目分類左の如し。

經濟學原理……………	一	社會學・社會觀察……………	五	統計・統計學……………	八
經濟學史……………	一	交通政策……………	五	移植民……………	九
法制經濟社會史……………	二	保 險……………	六	支那問題……………	二〇
經濟政策一般及び經濟事情……………	三	貨幣・信用・物價……………	六	米國問題……………	二〇
農業經濟……………	三	銀行・金融・放資……………	六	震災と經濟……………	二〇
商業經濟……………	四	財政一般……………	六	雜……………	二〇
社會問題……………	四	租 稅……………	七	著書評論及び書目……………	二〇

河上 肇	マルクス説に於ける資本の起源	大ノ二
河田嗣郎	スミスの自然主義觀と自由政策の見地	大ノ一
黒正 巖	古川古松軒の著述に就て	大ノ六
森 耕二郎	客觀的勞賃論の史的發展	大ノ三、四
同	マルクスの勞賃論	大ノ五、六
同	リカアドの價值論に就て	大ノ五、六
同	アダム・スミスの勞働價值法則の妥當性に就て	大ノ一
武藤長藏	スミスの名義生産及其分配等	大ノ一
小川福太郎	スミスを早く我國に傳へたる 蘭文經濟書	大ノ一
小川郷太郎	經濟學史上のベツカリヤ	大ノ一
長田三郎	スミスの公債論	大ノ一
作田莊一	スミスの植民地觀の由來と地位	大ノ一
田島錦治	スミスの自由貿易觀	大ノ一
同	マルクス氏餘剩價值説の評論	大ノ一、二、三、四
同	支那の古典に現はれたる社會政策	大ノ一、二
同	マルクス氏の集産主義の實行難を論ず	大ノ一、二、三、四
同	スミスとコンジヤックとの價值説	大ノ一
同	虞夏書に見はれたる政治經濟思想	大ノ一
同	産業集中に就てのマルクス説の謬想	大ノ一
同	土地國有に關する諸説概評	大ノ一
財部靜治	富國論の研究方法に就きて	大ノ一
同	英國經濟學發展の一大觀	大ノ一
谷口吉彦	マルサスの地代論に就て	大ノ一
同	スミスの價格論と分配論	大ノ一
同	スミスの學說に關し藤田博士の教を乞ふ	大ノ一、二、三、四

恒藤 恭	道德的價值判斷に關するスミスの思想	大ノ一
八木芳之助	マルクスの絶對地代に就て	大ノ一、二
山口正太郎	ラレーの「和蘭貿易に關する考察」	大ノ一、二
同	リストと歴史派經濟學	大ノ一、二
同	歴史派經濟學發達の徑路	大ノ一
同	スミスと浪漫派經濟學	大ノ一
同	獨逸古典學派の勞賃論	大ノ一
山本勝市	機械と勞賃の相互關係に就てマルクスの見解	大ノ一
山本美越乃	スミスの對植民地策	大ノ一
法制經濟社會史		
本庄榮治郎	貯穀と常平倉	大ノ一
同	徳川時代に於ける農本の意義	大ノ一
同	日本經濟史研究の必要と困難	大ノ一
同	水戸烈公の穀物政策	大ノ一
同	日本經濟史の特性	大ノ一
同	氏族制度雜考	大ノ一
同	百姓と町人	大ノ一
同	安政の震災と救済策	大ノ一
同	安政震災の復舊策に就て	大ノ一
同	水戸藩に於ける各種の貯穀	大ノ一
同	水戸藩常平倉の成立	大ノ一
同	水戸藩常平倉の運用	大ノ一
同	天保時代の西陣	大ノ一

同	近世の農家經濟	六ノ六
同	西陣の機業仲間	三ノ一
同	再び西陣の機業仲間について	三ノ二
同	我國近世の土地問題	三ノ五
同	天保以後の西陣	三ノ六
同	原始的な土地所有權の一例	七ノ四
同	フィジー島の原始共產制	六ノ三
吉川元光	舊岩國藩の製紙原料保護政策	三ノ六六
黒正 巖	京城六矣廬に就いて	三ノ二
同	大邱の令市に就いて	三ノ五
同	エルンスト・フリードリッヒの經濟階段説	三ノ三
同	舊岡山藩の井田法	三ノ五
同	舊岡山藩の社倉法に就て	六ノ三
同	中世末期に於ける村落の結合を論ず	七ノ一
牧野信之助	鎌倉時代の家族制度	三ノ二
三浦周行	中世都市の發達	三ノ六
同	武士成立の經濟的要素	七ノ二
同	鎌倉時代の土地制度	七ノ五
同	御家人の特質	三ノ三
同	小島祐馬	三ノ四
同	文那古來の限田説	三ノ二
同	舊尾張藩に於ける地割制度	七ノ三
同	壹岐國に於ける地割制度	三ノ一
大森研造	Luca Pacio 以前の會計史の概要	三ノ四
清水泰次	明代の救済制度	三ノ四

新村 出	往古に於ける上海と日本の史的關係	三ノ一
財部靜治	基督教文明の發展概論	三ノ六
瀧本誠一	德川時代の税制	六ノ三
經濟政策一般及經濟事情		
藤野 靖	生産者及び消費者としての露西亞	六ノ四
石川興二	將來の産業的指導者としての日本及び諸國	三ノ五
小島昌太郎	戰後英吉利の經濟狀態	三ノ三
同	獨逸側より見たる聯合國の對獨經濟政策	三ノ四
小川福太郎	英國と露西亞	三ノ一
作田莊一	世界經濟の意義	七ノ六
戸田海市	極東經濟建設の企圖	六ノ二
同	經濟界不安の繼續	三ノ一
同	天然資源の國際的開放の原則	三ノ二
山本美越乃	我國の人口對食糧問題	六ノ四
同	發明と國力	六ノ五
農業經濟		
河田嗣郎	農業社會主義論	三ノ一
同	注意すべき小作人問題	三ノ三
同	農業銀行國營の必要	三ノ四
同	農業労働問題	三ノ五
同	小作制と小作法	三ノ六

河田嗣郎	勞農露國の農業	主ノ六	河田嗣郎	定價制と正價制	主ノ三
同	農業勞働自治組合制	主ノ一	同	食料品市場問題	主ノ五
同	農業不動產金融と一般不動產金融	主ノ二	小島昌太郎	比律賓の貿易と海運	主ノ三
同	小作調停法案に就て	主ノ三	同	濠太利の貿易と海運	主ノ五
同	農村問題と其救済策	主ノ三	同	世界貿易概觀	主ノ一
同	農民土地愛着心冷却の傾向	主ノ六	同	各國貿易概觀	主ノ四
同	自作農制定事業の意義と効果	主ノ三	小川郷太郎	物價引下策と抽籤品附賣賣	主ノ五
同	自作農地制定施設要項を評す	主ノ五	大森研造	我國在來の商業帳簿	主ノ五
同	農業生産の機械化と經營規模	主ノ六	同	滿洲に於ける支那商店の帳簿	主ノ五
同	愛蘭上の自作農制定事業	主ノ一	同	開城簿記の起源に就て	主ノ一
同	英國の自作農制定事業	主ノ二	谷口吉彦	政府の輸出貿易振興策に就て	主ノ五
同	獨逸の國內植民事業	主ノ三	同	資本主義下の商業の機能に就て	主ノ六
同	丁抹の小農地設定事業	主ノ四	戸田海市	取引所改善の要點	主ノ三
同	小麥及小麥粉關稅引上是非	主ノ五	社會問題		
同	食糧問題と朝鮮の米作	主ノ六			
同	朝鮮の農業金融組織	主ノ一			
同	小作問題と朝鮮の小作制	主ノ二			
同	朝鮮の雜種農業	主ノ四			
三田村一郎	朝鮮干潟地利利用論	主ノ四	河田嗣郎	國際勞働立法の開拓者	主ノ五
高岡熊雄	我國の農產物生産調査に就て	主ノ一	同	戰後獨逸の社會主義運動	主ノ六
戸田海市	小作爭議原因の研究	主ノ三	同	勞働組合主義變轉の傾向	主ノ一
同	蓬蘽業の擴張及び改善	主ノ二	同	ボルシェヴィズム分解の傾向	主ノ三
商業經濟			同	勞働者負傷の原因調査	主ノ四
			河上 肇	時機尚早なる社會革命の企について	主ノ五
			小林輝次	社會主義の分類	主ノ六
			三田村一郎	英國現代の經濟學者と社會主義	主ノ六
			中 丸 叶	獨逸に於ける勞働立法の發達	主ノ三

柴田規矩三 千九百二十一年中の英領印度労働爭議

五ノ四

財部靜治 僧侶と労働問題

五ノ五

同 個人主義及社會主義局外觀

六ノ二

同 宗教と社會主義との關係

六ノ三

山本美越乃 八時間労働制の沿革

五ノ三

社會學及社會觀察

田島錦治 加持力教の社會論者に就て

六ノ三

財部靜治 歴史と社會學との關係

五ノ五、五ノ六

同 T. O. S. の公共福祉觀

五ノ五

同 進歩か退歩か

五ノ六、五ノ七

同 地學觀社會學說に就きて

五ノ四、五ノ五

同 戦争と道德の原則

五ノ五

同 個人と團體との關係

六ノ一

同 獨身概論

七ノ四

高田保馬 基礎社會の發達方向

七ノ五

同 社會の團結の減衰

七ノ三

同 階級に就いて

五ノ四、五ノ五

同 マルクスの階級概念

六ノ一

同 階級の動學的考察

六ノ四

恒藤 恭 社會哲學に於ける主意的二元論的思想

五ノ五、五ノ六

同 政治現象の本質

六ノ三

同 入木芳之助 一子相続制度に就て

六ノ四

米田庄太郎

リツケルトの價值體系

五ノ六、五ノ七

同 傳統派の社會連帶思想

五ノ五

同 サン・シモンの社會改造哲學及び連帶思想

六ノ一

同 サン・シモン派の社會改造哲學及び社會連帶思想

六ノ三、六ノ四、六ノ五、六ノ六

同 獨逸最近の社會學論

六ノ三、六ノ四、六ノ五

同 フォン・ウイゼの社會學論

六ノ一

同 フォン・カントの社會學論

六ノ三、六ノ四、六ノ五

同 ビオ・ンシャル假説の意義

六ノ一

同 社會學と現象學

六ノ二

同 フツサールの現象學

六ノ三、六ノ四

交通政策

小島昌太郎 我が最高經濟政策と海運政策

七ノ三

同 日英米の海運協定

七ノ三

同 海運に於ける競争と獨占

七ノ一、七ノ二

同 獨占海運業者の排他的手段

七ノ二

同 海運に於ける競争と獨占との分界

七ノ三、七ノ四

同 海運の獨占より生ずる利益

七ノ五

同 海運の獨占より生ずる弊害

六ノ二

同 獨占的海運同盟に對する政策

六ノ三、六ノ四、六ノ五

同 海運同盟に對する政策

六ノ一

同 海運同盟の運賃に對する國家政策

六ノ二

同 海運會社の保護と海運同盟の監督

六ノ三

神戶正雄	地租の轉嫁	大ノ二	同	我所得税と普通の原則	大ノ六
同	所得税の轉嫁	大ノ三	同	累進税の根據に就て	大ノ一
同	不量氣と租税	大ノ四	同	最低生活費免稅論	大ノ二
同	投資と租税	大ノ五	同	最低生活費課税説を駁す	大ノ三
同	租税の公平と利益團體の組織	大ノ六	同	二重税を論ず	大ノ四
同	所得本體の不明確又は捕捉	大ノ一	同	間接税の整理を論ず	大ノ五
同	難に基く不公平課税の可能	大ノ二	同	不勞利得税を論ず	大ノ六
同	娛樂税の重要	大ノ三	同	戸數割を論ず	大ノ二
同	奢侈課税としての關稅	大ノ四	同	財產税論	大ノ三
同	地租の不公平可能	大ノ五	同	營業稅論	大ノ四
同	娛樂税の構成	大ノ六	同	營業稅改正論	大ノ一
同	營業税の不公平可能	大ノ一	同	地租の改廢に就て	大ノ二
同	地租と營業税との對立に關する考察	大ノ二	同	地租論	大ノ三
同	相續税の能力原則上の弱點	大ノ三	同	税法の新改正を論ず	大ノ四
同	課税に於ける家族事情の考慮	大ノ四	同	地租委譲と收入の缺陷	大ノ五
同	物價と租税の不公平	大ノ五	同	營業稅廢止論を評す	大ノ六
同	課税と時の元素	大ノ六	同	米國の新關稅法に就て	大ノ一
同	勞働者所得に對する特別課税	大ノ一	同	所得説に就て武藤氏に答ふ	大ノ二
同	所得税の改正を論ず	大ノ二	同	果進税の公平犧牲説に關する統計的觀察	大ノ三
小川郷太郎	超過所得税論	大ノ三	同	租稅負擔の地方別研究	大ノ四
同	獨逸帝國に於ける税制の發達を論ず	大ノ四	同	統計・統計學	大ノ五
同	戰時戰後における獨逸税制の變革を論ず	大ノ五	同	藤野 靖 大學生の一年間の學費	大ノ六
同	直接税制度の整理に就て	大ノ一	同	河田嗣郎 炭鐵労働者の生計	大ノ二
同	我國の地方税を論ず	大ノ三			
同	地方税制度の整理を論ず	大ノ四			

同	炭鐵労働者の生計状態	夫ノ六
同	生計費研究法を論ず	主ノ三
森本厚吉	照應計算の一方法	右ノ二
蠅川虎三	兌換券と物價指數との關係	右ノ四
同	照應の理論と社會及經濟統計	大ノ三
同	漁船の遭難に就て	左ノ三
同	金利に關する一研究	主ノ五
岡崎文規	我國の離婚率に就いて	主ノ三
同	我國の都市及び地婚姻の統計的觀察	主ノ六
同	性別年齡別失業統計	大ノ三
同	獨逸高等官の生計費	大ノ四
同	婚姻年齡の統計的研究	大ノ四、六
同	簡易平均法に就いて	大ノ五
同	公娼の前借金に就て	右ノ一
同	シユワーベの法則	右ノ三
同	戰後獨逸の大學生數	右ノ四
同	京都市に於ける家賃の統計的研究	右ノ五
同	婚姻率に就て	大ノ三
同	離婚に就て	大ノ二
同	統計的計數	大ノ三
同	配偶の有無と死亡率	大ノ四
同	獨逸最近の乳兒死亡率	大ノ五
同	統計的研究に於ける選擇意志	主ノ四
同	世界戦争と人口の變動	主ノ四
土見三郎	山本美越乃	主ノ四
同	生計調査を論ず(京都市小學校教員生計調査)	主ノ六
同	京都市小學校教員生計調査	主ノ一
同	伯林に於ける乳兒死亡率	主ノ三
同	世界戦争と伯林の人口	主ノ四
同	獨逸大都市に於ける離婚數の激増	主ノ五
同	伯林最近の生活費	主ノ六
同	財產税と國富統計	主ノ一
同	「戰前戦後に於ける國富統計」を讀みて	主ノ二
同	物價問題の統計的研究	主ノ一
同	Pavelar の統計要覽	主ノ三
財部靜治	住居統計概論	主ノ三
同	本邦自殺の男女別	主ノ五
同	東京市の水面人口及所帶	大ノ六
同	私經營統計概論	右ノ一、三
同	道德統計論概説	大ノ六、九、一二、四、六
同	失業者統計概説	主ノ五
同	統計拾穗抄	主ノ六
同	米國に於ける一家五口の最少生活資調	主ノ一
移植民	原 勝郎	主ノ五、六
同	探長補短	主ノ二
同	末廣重雄	主ノ六
同	在滿朝鮮人の現狀と其の救済策	主ノ三、四
同	殖民地の財政政策に就きて	主ノ一、三、六、七、八、九、一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇、三一、三二、三三、三四、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇

山本美越乃 植民政策上より觀たる委任統治

同 今後の植民政策の基準

同 植民地の經濟政策に就きて

同 移殖民獎勵問題と世の謬見

支那問題

小島祐馬 現代支那に於ける社會上の一缺陷

末廣重雄 支那の關稅改正に就て

同 支那の改造と國際管理

戸川海市 北支那の飢饉

同 支那の産業に對する投資

矢野仁一 支那の帝政と支那の文化

同 支那の社會の固定性

同 支那の共和政治の成立及び建設

米國問題

本庄榮治郎 米國研究の必要

神戶正雄 排日問題に就きて

小島昌太郎 北米合衆國の排外的海運政策と我海運

作田莊一 米國の排日立法より生ずべき重大なる結果

末廣重雄 米國の排日問題

戸川海市 米國の海運政策に就て

震災と經濟

神戶正雄 時局緊急の經濟關係諸勸令

河田嗣郎 震災經濟觀

同 復興事業と經濟界の現況

大森健作 震災地と産業組合

小川郷太郎 震災と租稅

山本美越乃 震災の教訓と復興問題

雜

福田徳三 戸田博士を憶ひて

神戶正雄 戸田君の追懷

河上 肇 富といふ支那字に就て

同 追懷の斷片

河田嗣郎 戸田博士と私

小島昌太郎 戸田先生を憶ふ

黒正 巖 經濟地理學研究に對するグルーベル博士の見解

松岡孝兒 バレト氏を憶ふ

西田幾太郎 戸田海市君の追懷

小川郷太郎 ビュッヒャー文庫

岡崎文規 名士の死の心理に關する統計的研究

關 一 戸田博士と大阪市勞働調査事業

財部靜治 Sanderland の日本文明評

同 Zimmermann の政治測量

著書評論及書目

本庄榮治郎	近刊の經濟史に關する三著述	二ノ二
同	竹越氏の日本經濟史に就て	二ノ六
本庄外二名	スミスの論著書簡及び傳記	六ノ一
同	スミスに關係ある和書	六ノ一
河上 肇	無責任なる翻譯の一例	五ノ六
同	排マルクス説の新刊書一二について	五ノ五
同	三種の「資本論」邦譯	二ノ四
同	竹内法學士譯「富國論」	四ノ四
小島昌太郎	海運同盟の略に參考資料に就いて	二ノ三、四
水谷長三郎	安倍法學士譯「唯物史觀と餘剩價值」	四ノ四
小川福太郎	原田法學士譯「ボーリユー經濟學原論」	五ノ六
大森研造	石澤氏の「本邦銀行發達史」を読む	二ノ六
沙見三郎	「東京市實地調査報告」を読む	四ノ四
谷口吉彦	リカアド經濟論文集の刊行	七ノ六
山口正太郎	マックス・ウェーバーの論文集	六ノ四
山本宣治	新マルサス主義英語通俗書解題	七ノ一